

【主催】 三方五湖自然再生協議会

「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】 福井県 / 若狭町 / 日本野鳥の会福井県 / 三方五湖ラムサールクラブ

公益財団法人リバーフロント研究所

「小さな自然再生」現地研修会（第30回）開催報告

2025年11月3日（月・祝）福井県三方上中郡若狭町・はす川等



開会挨拶



現地視察



座学研修



意見交換会



日本河川・流域再生ネットワーク

2026年3月



河川
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

「小さな自然再生」現地研修会（第30回）

開催報告

2025年11月3日（月・祝） 福井県三方上中郡若狭町・はす川等

はじめに

福井県三方上中郡若狭町を流れるはす川流域において、「小さな自然再生で学ぶサケやアユの遡上環境改善」をテーマに第30回「小さな自然再生」現地研修会を開催しました。本研修会では、三方五湖自然再生協議会（自然護岸再生部会）が三方五湖周辺河川での自然再生に向けて小さな自然再生を活用した多様な水辺環境の創出や魚類遡上環境の改善などを打ち出す中、はす川流域において地域で小さな自然再生を進めていくためのアイデアやヒントを、現地も巡りながら参加者とともに学び合いました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真や講演資料を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力頂きましたの皆様に厚く御礼申し上げます。

2026年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

開催概要

- 開催日時： 2025年11月3日（月・祝） 9:30~16:30
- 開催場所： 福井県三方上中郡若狭町
<座学：リブラ若狭/現地：はす川、串小川>
- 参加者： 44名
- 主催： 三方五湖自然再生協議会
- 共催： 「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク
- 協力： 福井県/若狭町/日本野鳥の会福井県/三方五湖ラムサールクラブ/
公益財団法人リバーフロント研究所

プログラム

(9:30~10:30) 開会 および はす川流域を知る @ リブラ若狭

- 開会挨拶（吉田丈人：東京大学 大学院農学生命科学研究科）
- 三方五湖自然再生協議会 自然護岸再生部会の取組みと小さな自然再生への考え方
（小林滉平：福井県自然環境課）
- はす川の特徴、地域資源としての価値
（吉田丈人：東京大学、小林滉平：福井県）

(10:30-14:00) はす川流域を巡る @はす川、串小川 及び 昼食

はす川の落合堰及び支川・串小川に設置されている落差工等を視察し、生き物の視点から自然環境や課題等を学びました。 ※雨天のため2班に分けて視察

- 現地指導講師：田原大輔（福井県立大学 海洋生物資源学部）、
岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）

(14:00~16:30) はす川流域でできる小さな自然再生を考える座学研修 @ リブラ若狭

- サケの生態、はす川流域や三方五湖周辺での遡上状況
（田原大輔：福井県立大学 海洋生物資源学部）、（柘植卓実：福井県海浜自然センター）
- できることからはじめよう～水辺の小さな自然再生～
（和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所）
- はす川流域でできることを考える意見交換会

(16:30) 閉会

開会挨拶



主催・共催者を代表して、三方五湖自然再生協議会・自然護岸再生部会の部長である東京大学大学院農学生命科学研究科・吉田丈人先生、及び「小さな自然再生」研究会の幹事を務める日本河川・流域再生ネットワークより、今回の研修会の趣旨説明及び開会挨拶を行いました。

座学研修 1 (午前)



三方五湖自然再生協議会 自然護岸再生部会の取組みと小さな自然再生への考え方

(小林滉平：福井県自然環境課)

- 三方五湖周辺地域の概要、自然環境保全上の問題・課題、三方五湖自然再生協議会の構成
- 課題の整理と解決に向けた取組み
- 自然再生事業実施計画に基づく自然護岸再生部会の取組み
- 自然護岸再生部会での小さな自然再生の考え方

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-1」を参照



はす川の特徴、地域資源としての価値

（吉田丈人：東京大学 大学院農学生命科学研究科）

- 三方五湖周辺の河川およびはす川の紹介
- はす川等のかつてと今の姿
- はす川等の河川で見られる魚類
- はす川等の利用 及び 魚類等の遡上のための環境について

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-2」を参照

現地視察：はす川流域を巡る

テーマ：「小さな自然再生で学ぶサケやアユの遡上環境改善」

はす川の落合堰、支川・串小川に設置されている落差工、及びはす川下流部を視察し、生物の視点からはす川流域の自然環境や課題等を学び、小さな自然再生でできることについて現場で議論しました。

※雨天のため2班に分けて視察



はす川本川の落合堰



はず川に落合堰上流右岸より流入する串小川



はす川に落合堰上流右岸より流入する串小川



はす川本川の上古橋

座学研修 2 (午後)



サケの生態と保全

(田原大輔：福井県立大学 海洋生物資源学部)

- サケの生態と役割
- サケの保全
- サケ・アユの遡上促進

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-3」を参照



はす川のサケ遡上の現況 (柘植卓実：福井県海浜自然センター)

- 日本のサケ（シロザケ）について
- はす川でのサケ遡上数調査及び結果
- 魚道のおかげでサケが上がってこれる ～人間と自然が共存するためには？～
- サケ遡上時期の北太平洋表面水温 ～沿岸海水温とサケ遡上の関連性～

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-4」を参照



できることから始めよう～水辺の小さな自然再生～

(和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所)

- 水辺の小さな自然再生とは
- 小さな自然再生の事例紹介
- 小さな自然再生に取り組む際のノウハウと留意点

⇒ 講演資料は巻末「参考資料 1-5」を参照



はす川流域でできることを考える意見交換会

（進行 白尾豪宏：公益財団法人リバーフロント研究所）

午前及び午後の座学研修、また現地視察結果を踏まえ、はす川の自然環境改善に向けて小さな自然再生でできることについて参加者と意見交換を行い、落合堰やはす川下流部で取組めるメニューや留意点等について議論をしました。

【参考資料 1-1】 三方五湖自然再生協議会自然護岸再生部会の取組みと、小さな自然再生への考え方 講演資料 (2/2)

活動の範囲

●事業の対象区域
三方五湖流域および
その周辺地域
(自治体: 美浜町・若狭町)

総面積: 33,090 ha



※候補は三方五湖流域の範囲を示す。
自然再生事業は、他の流域(北川流域や目川流域)においても効果的な取り組みを考慮して実施する。

※1環境に優しい農法事業においては、農家のつながりから、三方五湖流域を管轄、美浜町及び若狭町の全農地を管轄区域を対象として実施する。

自然再生事業実施計画

三方五湖自然再生全体構想に基づき策定

事業	実施部会
湖岸等の自然再生	自然護岸再生部会
湖と田んぼのつながり再生	湖と田んぼのつながり再生部会
侵略的外来生物への対策	外来生物等対策部会
三方五湖におけるヒシへの対策	
環境に優しい農法	環境に優しい農法部会
三方五湖を活用した環境教育	環境教育部会
シジミのなぎさ再生	シジミのなぎさ部会

各部会には、農漁業者、地元住民、研究者、環境保全団体、行政などが参加

自然護岸再生部会

治水の観点での護岸工事などにより、コンクリート護岸の整備が進み、生き物の生息地であるエトーン、元の自然に近い岸辺が減少。

→治水と生物多様性保全を両立させた「自然護岸」の再生のための取組みを検討・実施。

＜自然護岸の例＞
既設のコンクリート護岸がある場所において、湖側に石倉漁礁の設置や浅場の造成を実施。

【構成員】
 部会長: 吉田 丈人(東京大学 教授)
 鳥浜漁業協同組合、海山漁業協同組合、南西郷漁業協同組合
 福井県内水面漁業協同組合連合会、福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会
 日本野鳥の会福井県
 田原 大輔(福井県立大学 教授)、個人部会員
 美浜町、若狭町、福井県の環境部局・土木部局・水産部局 等

自然護岸再生部会 主な取組み

(1) 自然護岸再生の取組み

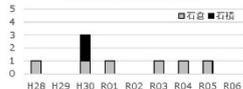
- 湖岸のコンクリート護岸に沿って、魚類など様々な水生生物の生息環境となる石倉漁礁の設置
- 多自然型護岸(玉石護岸)の設置
- 河川の波溜り土砂等を活用し、シジミをはじめとする生物の生息環境を整備するため、湖での浅場造成(他部会との連携)を実施

→ 今後、手引書の護岸モデルの実証等、関係部局・団体と連携した護岸再生を継続



石倉漁礁、石積護岸(美流か所敷)

浅場造成・整地



地点	石倉漁礁	石積
H26	1	0
H29	1	0
H30	1	0
ROL	1	0
RO2	1	0
RO3	1	0
RO4	1	0
RO5	1	0
RO6	1	0

自然護岸再生部会 主な取組み

(2) 自然護岸再生の手引書の作成

- 漁業関係者、研究者、環境保全団体、関係行政(環境・農林・土木)が協働し、現地調査や意見交換等を行い、自然護岸再生の手引書(※)をとりまとめ
- 手引書では各湖の特性を踏まえ、工法、配慮事項などを整理(※)「久々子湖、水月湖、音瀬、三方湖及びはす川の自然護岸再生の手引き書」(令和2年3月)
- はす川等の周辺河川での環境配慮についても記載
…魚類の生活史に配慮した波溜り等、河川内で多様な環境を創出する取組み(小さな自然再生) など

→ 手引きの内容は、自然再生や河川維持管理を行う際の参考に



手引き作成時の検討

手引き 自然護岸再生モデルの例(三方湖)

自然護岸再生部会での小さな自然再生の考え方

＜手引書に整理の「小さな自然再生」について＞

- はす川等の自然再生の方針
 - 河川内において多様な環境を創出する(小さな自然再生の実施)
- 基本的考え方
 - 河川内では、現況の埋か地で形成される堆砂の形状を工夫するなどによって、多様な水辺環境を創造できるよう計画・設計を進める。
 - 河川内構造物の設置時には魚類の移動を妨げない構造とし、運用面でも機能維持ができるよう計画。
- 事例
 

築港工に自然石を配置して魚類移動を可能に(南川水系染ヶ谷川)

河道内に大石を配置し、ワンドを形成引用:水辺の小わざ(山口県、平成23年)

今後、小さな自然再生に対する協議会内や地域等の関心を高め、取組みにつなげていきたい(協議会内のほか、地域と連携した自然再生)

→ 「小さな自然再生とは何か?」「何ができるのか?」を学ぶ場があるとよい

【参考資料 1-2】 はす川等の河川について 講演資料 (1/1)

令和7年11月3日(月・祝) 「小さな自然再生」現地研修会

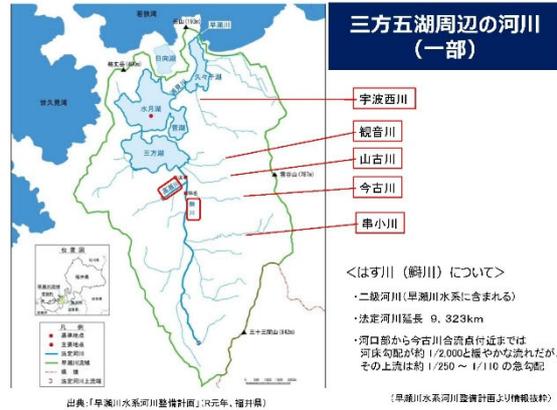
はす川等の河川について



はす川



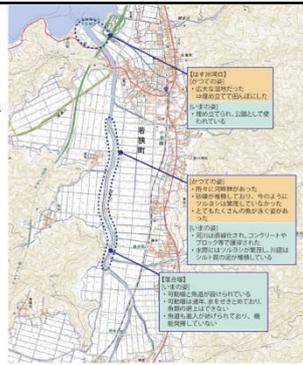
串小川



はす川等のかつと今の姿

※自然護岸再生の手引き書より

- ・昭和30～40年代のはす川等の流入河川(二級河川、雑用河川、普通河川)は、現在のような、矢板やコンクリートブロックの護岸は少なく、護岸は石積みで、河畔林もあった。
- ・河床は現在のようにツルヨシが茂ることは無く、砂礫が堆積し、アユ、ハス、サケなども多く生息していた。
- ・現在はかつてに比べて自然の川岸が大幅に減少し、ツルヨシが茂り、魚介類は減少している。



はす川等の河川で見られる魚類

※自然護岸再生の手引き書より

- サケ
- アユ
- ワカサギ
- (●ハス)



はす川等の利用

●環境教育の場



●取水利用



魚類等の遡上のための環境について

河川内に、落差工や堰が存在。(※横に魚道を設けているものもあり)
一小さな自然再生による、
魚類の遡上環境の改善が望ましい



【参考資料 1-3】 サケの生態と保全 講演資料 (1/6)



2



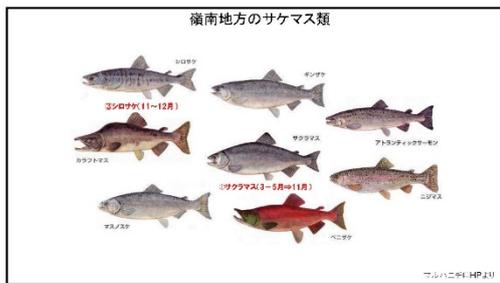
3



4



5

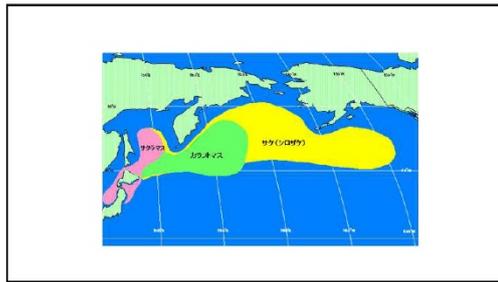


6



7

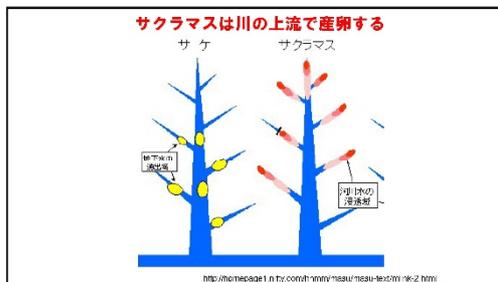
【参考資料 1-3】 サケの生態と保全 講演資料 (2/6)



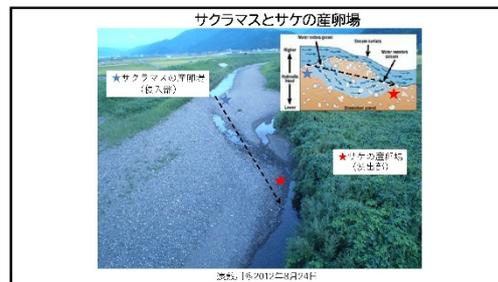
8



9



10



11

サケマス類の保全: 仔魚が浮上するまでの保護が必要

産卵床の特徴

- 大岩は卵の産卵や保護に作る
- 産卵時使った河床(産卵) 1日~3.4m、産卵0.8~1.4m
- 産卵の深さ 0.5~0.9m

産卵された卵は、川底で冬を越して、翌年の春に孵化します。
→ 11~2月頃まで川底の中に落ちる

サクラマスの生態と保全 (資料: 2012年)

(1) 100°C ~ 15°C	(2) 100°C ~ 10°C
(3) 100°C ~ 5°C	(4) 100°C ~ 0°C
(5) 100°C ~ -5°C	(6) 100°C ~ -10°C

図 2. サケマス類の産卵床と産卵時河床に落ちる卵

12

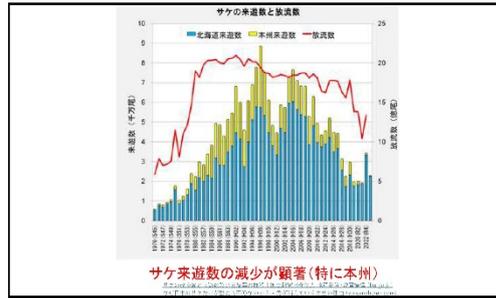


13

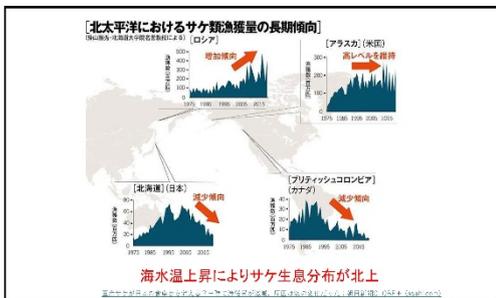
【参考資料 1-3】 サケの生態と保全 講演資料 (3/6)



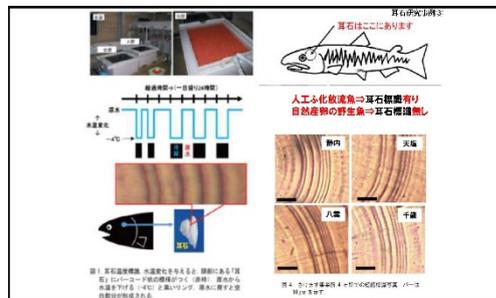
14



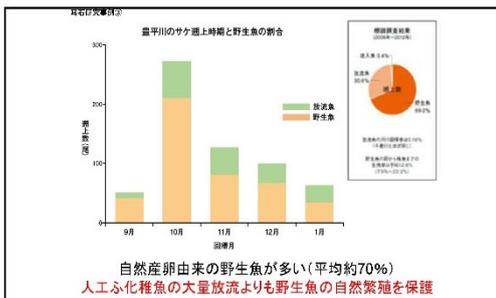
15



16



17



18

19

【参考資料 1-3】 サケの生態と保全 講演資料 (4/6)



20



21



22



23

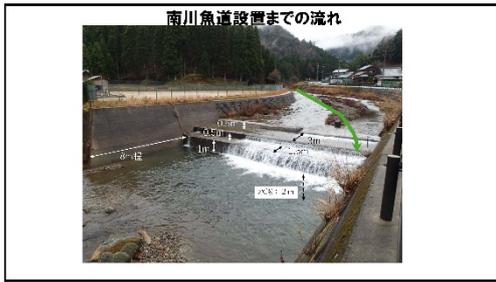


24



25

【参考資料 1-3】 サケの生態と保全 講演資料 (5/6)



26



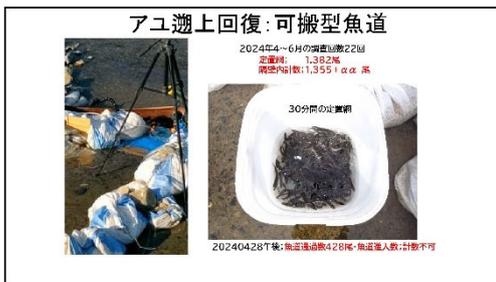
27



28



29



30



31

【参考資料 1-3】 サケの生態と保全 講演資料 (6/6)



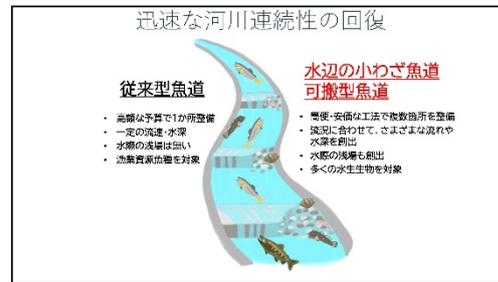
32



33



34



35

【参考資料 1-4】 はず川のサケ遡上の現況 講演資料 (2/2)

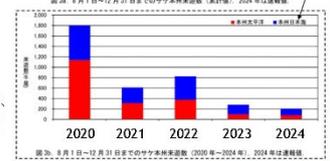
魚道のおかげでサケが上がってこれる

～人間と自然が共存するためには？～

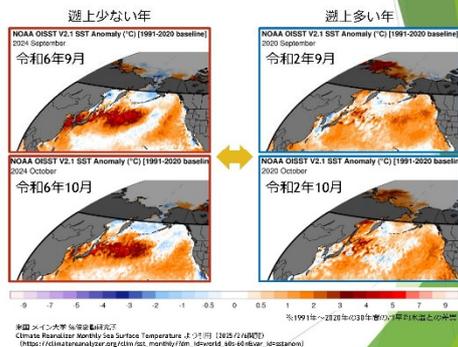
- ▶ はず川のサケ遡上数は、この3年の間減少傾向にあるが、堰に設けられた魚道はサケの通り道としてきちんと機能している
 - ▶ サケにとって堰は繁殖場所に向かう際の障害となり、魚道がなければサケは遡上が難しい
 - ▶ ただ一方でその地域の人間にとっては、堰は利水・治水のために重要なもの
 - ⇒人間とサケにとっての折衷案の一例としての魚道
- ▶ 0か100かではなく、人間側の都合と自然の摂理の両立を目指して、折衷案を探っていく
 - ▶ そのために生き物の暮らしを知り、自然環境の仕組みを知ることがより効果的な取り組みにつながります。
 - ▶ 三方湖やはず川を知り、サケをはじめとしたそこに暮らす生き物のことを知り、自分たちに何ができるかを考えていきましょう。

【余談】 遡上数減少の理由は？ (R1～R6)

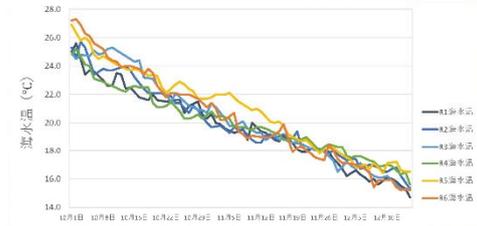
- ▶ サケ来遊数(≒遡上数)は、令和6年度速報値において平成元年(1989年)以来最少(同期比)
 - ⇒はず川のサケ遡上減も、この全国的な傾向の中にあるようだ
 - ⇒令和2年(2020年)前後生まれのサケのうち、大部分が親として戻ってこれなかった
- ▶ 水産研究・教育機構による令和5年度分の報告では、検証の困難な要因が多い中で、**回避ルート上の高水温による減耗**が可能性のひとつとして挙げられた



サケ遡上時期の北太平洋表面水温

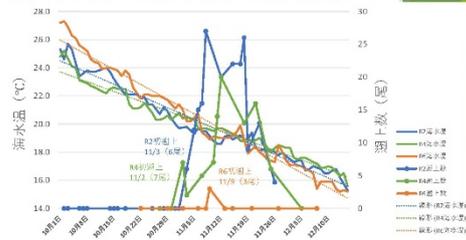


若狭町の沿岸海水温 調査結果 (R1～R6)



- ▶ 休館日を除く毎日、朝9:00に海浜自然センター前の堤防から深度1mで採水し計測
- ▶ 令和5～6年は10月中 高めで推移し、かつグラフ全体の傾きが大きい(変化が急)

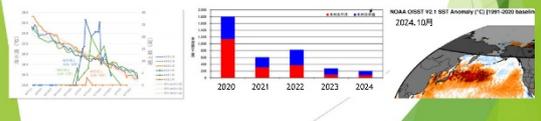
沿岸海水温とサケ遡上の関連性



- ▶ 令和2年・4年に比べ、令和6年は10月まで沿岸海水温が概ね1～2℃高めで推移
- ▶ 沿岸海水温が20℃になるくらいの時期に、はず川へ遡上し始めている(初遡上日の海水温 5年間平均 20.1℃)
 - ⇒沿岸海水温と遡上時期は呼応しており、海水温が下がるのが遅い年は遡上も遅くなる?

余談まとめ

- ▶ 全国的に見ても日本へのサケ来遊数は減少していきっており、はず川も例にもれずここ数年でサケ遡上数が減少
- ▶ 遡上数減少の要因の一つとして日本近海をはじめとした北太平洋の海水温の上昇が挙げられており、低水温を好み高水温に弱いサケにとって厳しい環境になっていることが推察される
 - ▶ 実際、はず川のサケ遡上数と若狭町での海水温のデータから、10～11月の水温が高い年は遡上数が少なかったことが確認できた
 - ▶ また、遡上開始時期も海水温の影響を受けているようで、水温が下がるのが遅い年は遡上も遅れた(20℃程度にならないと遡上が始まらなかった)



【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (1/10)



本日の内容

できることから始めよう 水辺の小さな自然再生

- 水辺の小さな自然再生とは
- 小さな自然再生の事例紹介
 - 小さな自然再生の取組の主な目的
 - 連続性の回復 (魚道づくり) の事例紹介
 - 生息・生育・繁殖の場づくりの事例紹介
 - 小さな自然再生の担い手の特徴
 - さらに事例を知りたい方は...
- 小さな自然再生に取組む際のノウハウと留意点
- この一か月の研修会の取組紹介

1. 水辺の小さな自然再生とは

⇒3分動画で概要を紹介

<https://youtu.be/VItaKMWuNbc?si=ifhyTW1kg33r2x4>

1. 水辺の小さな自然再生とは

～水辺で取組む みんなで発案・協働する手づくりの自然再生～

英語名：
Collaborative Nature Restoration

【小さな自然再生の定義】
次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義。
 ①自己調達できる資金規模であること
 ②多様な主体による参画と協働が可能であること
 ③修復と撤去が容易であること
 (2014年:「小さな自然再生」事例集編集委員会より)

【水辺の小さな自然再生の意義】

- 地域づくり: 多様な主体の参加により新たな交流が生まれ地域が活性化
- 公共事業の補充: 行政による自然再生のきめ細かいフォローアップも事業が動き出すまでのつなぎ
- 環境・生涯教育: 水の恵みと恐れを実感できる体験の場、自然をルーツとする故郷への愛着醸成
- 河川技術の向上: 川の営みを身近なスケールで学ぶ訓練の場、失敗が許される見習いの機会

1. 水辺の小さな自然再生とは ～できることの一例～

■小さな自然再生による場づくりの事例

小さな自然再生による取組事例

1. 水辺の小さな自然再生とは ～小さな自然再生の沿革～

■小さな自然再生の沿革 (主な取組みの変遷)

【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (2/10)

1. 水辺の小さな自然再生とは ～小さな自然再生の沿革～

■小さな自然再生の沿革 (全国普及活動の変遷)



公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部 7

本日の内容

できることから始めよう 水辺の小さな自然再生

1. 水辺の小さな自然再生とは
2. 小さな自然再生の事例紹介
 - 2.1. 小さな自然再生の取組の主な目的
 - 2.2. 連続性の回復 (魚道づくり) の事例紹介
 - 2.3. 生息・生育・繁殖の場づくりの事例紹介
 - 2.4. 小さな自然再生の担い手の特徴
 - 2.5. さらに事例を知りたい方は・・・
3. 小さな自然再生に取組む際のノウハウと留意点
4. この一か月の研修会の取組紹介

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部 8

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～自然再生の目的～

■自然再生の目的

表 自然再生の目的分類 (場づくり・対象種)

目的	物理環境 (場づくり)	箇所数	対象種 (事例数)
連続性の回復	活流解消 (保所方向)	22	85%
	活流解消 (増勢方向)	4	15%
生息・生育・繁殖場の造成	湧出	23	45%
	リンド-たまり	3	6%
	二次水路	3	6%
	同流内	4	8%
	茅池 (貯留池)	10	20%
	池沼 (貯留池)	5	10%
	池沼再生	1	2%
休耕田再生	2	4%	
合計	77	100%	-

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部 9

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～

■適用工法 (連続性の回復)

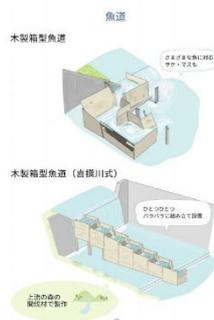
表 適用工法分類 (連続性の回復)

目的	物理環境 (場づくり)	箇所数	適用工法
連続性の回復	活流解消 (増勢)	22	85%
	活流解消 (保所)	4	15%

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部 10

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～

2 魚の居場所づくり



公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部 11

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



2024年11月 大瀬川でのびろろ魚道づくりの@滋賀県長浜市

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部 12

【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (3/10)

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～

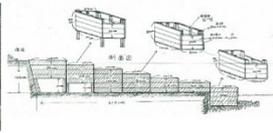


木箱を使った手作り魚道

担い手：琵琶湖環境保全ネットワーク、
龍谷大学、滋賀県、NPO

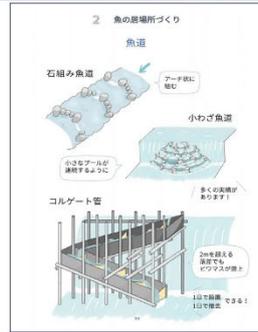
目的：魚の遡上促進

材料：間伐材



琵琶湖の琵琶湖環境保全ネットワーク © 滋賀県大津市

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



2023年9月 香林川(津城白河川)での魚道づくりの岡山県岡山市

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



湯釜を絡過する水鏡の小川魚道 (兵庫県・住吉川)

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～

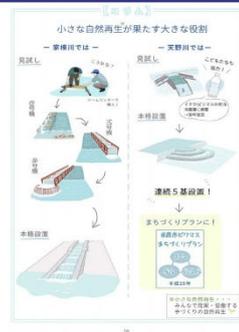


美川の甲斐ハイパス階段魚道 © 滋賀県東近江市

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



天野川印刷製魚道 © 滋賀県米原市



【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (4/10)

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



◎ 公益財団法人 リバー・フォーラム 東北支部 19

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



◎ 公益財団法人 リバー・フォーラム 北海道支部 20

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



◎ 公益財団法人 リバー・フォーラム 東北支部 21

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



◎ 公益財団法人 リバー・フォーラム 北海道支部 22

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



◎ 公益財団法人 リバー・フォーラム 東北支部 23

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



◎ 公益財団法人 リバー・フォーラム 北海道支部 24

【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (5/10)

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



日輪川川のホープフル構築 @ 伊勢市 伊勢市

新大宮川の荒廃急流の改良 @ 磯子区 大津市

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部

25

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～

■適用工法 (生息・生育・繁殖場の造成)

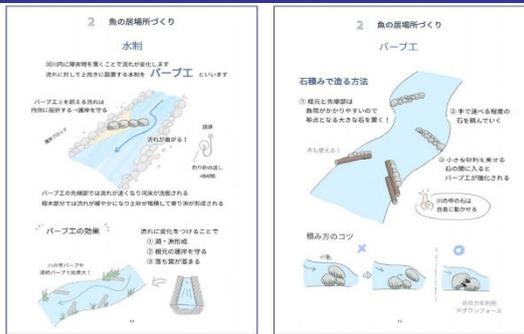
表 適用工法の分類 (生息・生育・繁殖場の造成)		適用工法	
目的	物理環境 (場づくり)	箇所数	
生息・生育・繁殖場の造成	湧出	23	パープエ (石積み、土の、ブロック積み、袋積、土直ち、コンクリート)、パープエ (自然石+大石)、パープエ (自然石+砂利+小石)、パープエ (自然石+砂利+大石)、パープエ (自然石+砂利+大石+大石)、パープエ (自然石+砂利+大石+大石+大石)、パープエ (自然石+砂利+大石+大石+大石+大石)
	河川・河床内	3	新築 (二砂・三砂・四砂)、パープエ (自然石+大石)、パープエ (自然石+大石+大石)
	二次水路	3	66%
	水際植生	4	8%
	防犯 (石積み)	10	20%
	防犯 (石積み)	5	10%
	防犯 (石積み)	1	2%
	防犯 (石積み)	2	4%
	防犯 (石積み)		
	防犯 (石積み)		



公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部

26

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～連続性の回復～



公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部

27

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



2022年9月 豊田川(岐阜県)沿川の魚の棲み場づくり @ 岐阜県 岐阜市

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部

28

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



美山川でのパープエによる湧き湧き @ 岐阜県 岐阜市

愛知川排水路でのパープエ @ 岐阜県 岐阜市

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部

29

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～

固い粘土の川底にも縁がよみがえる

担い手: パープ研究会, 横浜市, 吉村伸一

目的: 砂を保持し植生を増やす
パープエの効果実証

材料: 砕石・ポリステレンネット・鉄筋

豊田川(岐阜県)沿川の魚の棲み場づくり @ 岐阜県 岐阜市

公益財団法人 リバー・フォーラム 研究部

30

【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (6/10)

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



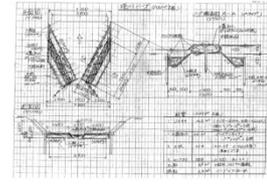
公益財団法人 リバーフロント研究所 31

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 32

ハの字パーブで淵づくり
 担い手：いい川づくり勉強会、岐阜県
 目的：淵の再生、生物の増加
 材料：割栗石・ネット・くい



種川のパーブ工 (設置～設置後) @岐阜県種川町

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～

原月(中流)パーブ



公益財団法人 リバーフロント研究所 33

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 34

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 35

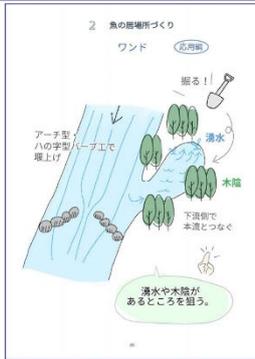
2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 36

【参考資料 1-5】 水辺の小さな自然再生 講演資料 (8/10)

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



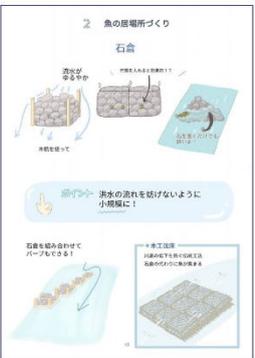
公益財団法人 リバーフロント研究所 43

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 44

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 45

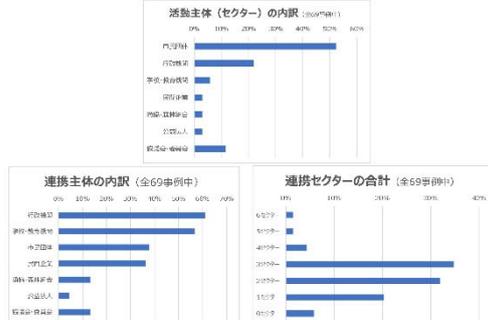
2. 小さな自然再生の事例紹介 ～生息・生育・繁殖場の造成～



公益財団法人 リバーフロント研究所 46

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～小さな自然再生の担い手の特徴～

■活動主体と連携主体



公益財団法人 リバーフロント研究所 47

2. 小さな自然再生の事例紹介 ～事例集～

■2冊の事例集を公開



できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015年3月/2020年3月)
<http://p.a.r.net.jp/activity/publication/104> / <http://p.a.r.net.jp/activity/publication/242>

公益財団法人 リバーフロント研究所 48

参考資料 2 – 参加者募集チラシ (表面)

第30回 福井県三方上中郡若狭町・はす川等
「小さな自然再生」現地研修会
 ～ 小さな自然再生で学ぶサケやアユの遡上環境改善～

参加者募集

開催日
 令和7年**11月3日** 月・祝

【開催趣旨】 三方五湖自然再生協議会（自然護岸再生部会）では、はす川等の三方五湖周辺河川での自然再生に向けて、小さな自然再生を活用した多様な水辺環境の創出や、サケやアユをはじめとする魚類の遡上環境の改善などを打ち出しています。今回の研修会では、「そもそも小さな自然再生とはどんな取組みなのか？」を知るとともに、はす川流域において地域で小さな自然再生を進めていくためのアイデアやヒントを、現地も巡りながら参加者とともに学び合います。

開催日時	令和7年11月3日（月・祝） 9:30～16:30（9:00～受付開始）
会場	福井県三方上中郡若狭町 <座学：リブラ若狭 / 現地：はす川、串小川>
対象	小さな自然再生に興味・関心のある方々
定員	50名（先着順）
参加費	無料
持ち物	雨具（少雨決行）、昼食
プログラム	※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

※参加申込方法、会場へのアクセス、問合せは裏面をご覧ください。

(9:30～10:30) 開会 および はす川流域を知る @ リブラ若狭

- 開会挨拶（吉田丈人：東京大学 大学院農学生命科学研究科）
- 三方五湖自然再生協議会 自然護岸再生部会の取組みと小さな自然再生への考え方（小林混平：福井県自然環境課）
- はす川の特徴、地域資源としての価値（吉田丈人：東京大学、小林混平：福井県）

(10:30-13:00) はす川流域を巡る @はす川、串小川

はす川の落合堰及び支川・串小川に設置されている落差工等を視察し、生き物の視点から自然環境や課題等を学びます。

■現地指導講師：田原大輔（福井県立大学 海洋生物資源学部）、岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）

(13:00～14:00) 昼食

(14:00～16:30) はす川流域でできる小さな自然再生を考える座学研修 @ リブラ若狭

- サケの生態、はす川流域や三方五湖周辺での遡上状況
 （田原大輔：福井県立大学 海洋生物資源学部）、（柘植卓実：福井県海浜自然センター）
- できることからはじめよう～水辺の小さな自然再生～（和田彰：公益財団法人リバーフロント研究所）
- はす川流域でできることを考える（ミニワークショップ）

(16:30) 閉会



ホームページ QRコード



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：三方五湖自然再生協議会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク

協力：福井県、若狭町、日本野鳥の会福井県、三方五湖ラムサールクラブ、公益財団法人リバーフロント研究所

参考資料 2 – 参加者募集チラシ（裏面）

会場のご案内

研修会場

リブラ若狭（2階 研修室）

〒919-1333

福井県三方上中郡若狭町中央1-2



※研修会場へは **公共交通機関** または **お車** でお越し下さい。

※公共交通機関を利用してお越しになる方へ
J R 小浜線の「三方駅」から徒歩15分
 （往路参考）敦賀駅 7:12発→三方 7:45着
 小浜駅 8:06発→三方 8:38着



申し込み方法

必要事項（氏名・所属・連絡先等）を明記の上、E-mailでお申し込み下さい。

申込〆切日：令和7年10月28日（火） 17:00

E-mail：info@a-rr.net

項目	記入欄
（ふりがな） 氏名	
所属	
連絡先	〒
	住所：
	電話：
	Email：

※記入された個人情報は、厳重に管理した上で、JRRNが主催する行事等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

【お問合せ】 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 （担当：和田彰・森本洋一）
 〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7階 （公財）リバーフロント研究所内
 Tel: 03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 Website: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>



2025年9月18日版

(MEMO)

(MEMO)



「小さな自然再生」現地研修会（第30回）開催報告

～ 2025年11月3日（月・祝）福井県三方中郡若狭町・はす川等～

2026年3月25日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階
公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: info@r-r.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。

